

次の問 2 から問 7 までの 6 問については、この中から 4 問を選択し、選択した問題については、答案用紙の選択欄の(選)をマークして解答してください。

なお、5 問以上マークした場合には、はじめの 4 問について採点します。

問 2 機械語命令に関する次の記述を読んで、設問 1, 2 に答えよ。

命令語の形式を、図 1 に示す。

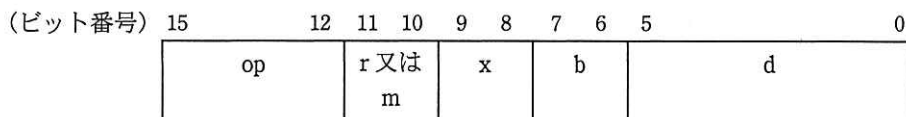


図 1 命令語の形式

図 1 で使用している記号の説明を、表 1 に示す。数字の末尾に h が付いているものは 16 進数表記である。

表 1 記号の説明

記号	説明
op	命令コード
r	レジスタ番号
m	分岐命令で分岐の判定に使用する値
x	指標レジスタとして使用するレジスタの番号
b	ベースレジスタとして使用するレジスタの番号
d	00h～3Fh で示されるアドレスの変位

- (1) この命令語を実行するコンピュータの 1 語は 16 ビットであり、1 語長のレジスタを 4 個 (レジスタ番号 0～3) と、命令の実行結果によって値が設定される 2 ビットの条件コードレジスタ (以下、CC という) をもつ。
- (2) 実効アドレスは、表 2 に示す式で算出される。ここで、(x)と(b) は、それぞれ x と b で指定されるレジスタに設定されている内容 (以下、レジスタの内容という) を示す。

表 2 実効アドレスの算出式

x	b	実効アドレス
0	0	d
0	0 以外	(b)+d
0 以外	0	(x)+d
0 以外	0 以外	(x)+(b)+d

(3) 命令コード（一部）を表 3 に示す。

表 3 命令コード（一部）

命令コード	機能	CC の設定
1	実効アドレスに格納されている内容と r で指定されるレジスタの内容の論理和を, r で指定されるレジスタに設定する。	○
2	実効アドレスに格納されている内容と r で指定されるレジスタの内容の論理積を, r で指定されるレジスタに設定する。	○
3	実効アドレスに格納されている内容と r で指定されるレジスタの内容の排他的論理和を, r で指定されるレジスタに設定する。	○
4	m と CC の論理積を求め, 結果が 00 でなければ実効アドレスに分岐する。結果が 00 であれば, 何もしない。	—

注記 ○：論理演算の結果が 0（全てのビットが 0）のときは 2 進数の 10, それ以外のときは 2 進数の 01 が設定される。

—：実行前の値が保持される。

設問1 レジスタの内容が図2に示す値のとき、次の命令の実効アドレスとして正しい答えを、解答群の中から選べ。

命令： 1983h

レジスタ番号	内容
0	0004h
1	0003h
2	0002h
3	0001h

図2 レジスタの内容

解答群

ア 0001h

イ 0002h

ウ 0003h

エ 0004h

オ 0008h

カ 000Ah

設問2 次の記述中の  に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ。ここで、レジスタと主記憶装置の内容は、図3と図4のとおりとする。

なお、解答は重複して選んでもよい。

レジスタ番号	内容
0	0004h
1	0003h
2	0002h
3	0001h

図3 レジスタの内容

番地	内容
0001h	0001h
0002h	000Fh
0003h	0003h
0004h	0004h
⋮	⋮
0010h	12C0h
0011h	24C0h
0012h	38C2h
0013h	4815h
0014h	4C16h
0015h	18C3h
0016h	28C1h
⋮	⋮

図4 主記憶装置の内容

図 3, 4 に示した状態で, 主記憶装置に格納されているプログラムを 0010h 番地から実行する。

0011h 番地の命令を実行した直後のレジスタ番号 0 の内容は  になり, レジスタ番号 1 の内容は  になる。

0013h 番地の分岐命令では 。0016h 番地の命令を実行した直後のレジスタ番号 2 の内容は  になる。

a, b, dに関する解答群

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| ア 0001h | イ 0002h | ウ 0003h |
| エ 0004h | オ 0005h | カ 0006h |
| キ 0007h | ク 0008h | ケ 0009h |

cに関する解答群

- |         |        |
|---------|--------|
| ア 分岐しない | イ 分岐する |
|---------|--------|